

## 振り仮名の現代的類型とその機能

国際基督教大学 渡辺鉄太  
佐々木 真

### 0. はじめに

最近の出版文化とその中における日本語の表現の多用性には目を見張るものがある。特に振り仮名の用いられ方には多用化した形態と機能がみられる。その中には漢字と読み仮名（平仮名）、もしくは漢字と意味仮名（平仮名でその意味を表記してあるもの）だけの組み合わせのみでなく、アルファベットに漢字を振ってあるものや、その逆のもの、または本来、辞書的な意味においては意味対応を持たないものが、あるコンテキストにおいて用いられているものなどがある。

本稿ではこれらの振り仮名を歴史的観点から、その機能の変遷をたどり、さらに現代の出版物にみられる多用な機能性を収集、分類及び分析を試みてみた。尚、本研究においては、その現代の多用化した形態と機能に着目し、従来用いられている音訓読み分けのための振り仮名は考察の対象から除外した。

### 1.0 歴史的変遷

江戸期までの振り仮名は、いわゆる振り仮名というものではなく、むしろ漢文読み下し文のための補助記号であり、翻訳補助記号として主に機能していた。江戸期に入り、大衆文化、特に娯楽のための読物が一般に普及するようになると、難しい漢字を幅広い層に読ませる必要が出てきた。中でも戯作本と呼ばれるものには特徴的な振り仮名が多用された。そこで黄表紙本の主題にみられるその例を挙げてみる。

もも た ろう ご にちばなし  
桃 太 郎 後 日 嚙  
きん きん せん せい えい がのゆめ  
金 々 先 生 栄 華 夢

ごぞんじのしょうばいもの  
御 存 商 売 物  
(由良。1986)

このように表題は漢字のみで書かれていたが振り仮名を振ることによって、作者は自分の意図したように読ませていたようである。ここでは漢字と平仮名を混合した形で表題を表記するのではなく、漢字のみでそれを記し、上に助詞を補い、口語体の読み仮名を振ることによって、その本来意図しているところの表題と、文語体の漢字で表された表題との間に一種のずれを生じさせ、それを一つの妙味としている。

また別の例として、次のようなものがある。

みょうみょうき ぶん  
猫々 奇聞

(由良。1986)

この例において独特な部分は擬音語の使用である。「猫」という漢字は音読みでは、「びょう」とよむが、ここでは「みょう」と読ませている。これにより猫が鳴いているような、オノマトピアとして使用している。さらにこれを「みょうみょう」と二度繰り返すことによってリズム感をその効果としてあげている。これなども振り仮名の助けがなければ不可能な手法である。

以上のように、江戸期の一つの例として戯作本にみられる例を扱ってきたが、この中でみられるように現代用いられている振り仮名の原形がこの時期に定着化したのではないかと考えられる。

明治時代にはいると、振り仮名が外来語の流入と出版文化の発展によって実質的に開花した。この時代には多くの当て字がみられる。

#### 1) 意味からあてたもの

ボタン          プライベート          マフチ          メダル          メタン  
釘          私人          燐寸          賞牒          沼気

(宛字外来語辞書編集委員会。1979)

#### 2) 音からあてたもの

スボンジ          メーソン          フライ          フイリツブ  
私奔私          梅孫 (人名)          婦雷          非力 (人名)

ドストエフスキー  
陀期委以夫斯基

(宛字外来語辞書編集委員会。1979)

振り仮名は外来語の当て字においては、表記上は補助的な役割を担っているが、実質的な部分は「主」であり、漢字の方が「従」である。なぜなら意味（ここでいう「意味」とは辞書的な意味、すなわち **reference meaning** をさす）から当てたものについては、元来その振り仮名で表されているものを表記すべき単語がなく、それを振り仮名表記で借用語として、もしくは外来語として扱い、その示す語を漢字を用いることで意味内容を伝えようとしていると考えられるからである。読者は漠然としたイメージ（意味以前）のものを漢字で得られるが、伝えられるべき概念は振り仮名が振られて初めて完結したものになる。音から当てたものに関してはなぜこのような振り仮名と漢字の組み合わせになったのかは明確ではないが、一つ考えられる可能性としてはその訴える視覚的効果、すなわちカタカナだけでは覚えにくい固有名詞などに漢字を添えることによって、より記憶され易いようにしたのではないかということである。

明治期はまた教育が普及した時代でもある。日本語の表記も固定化、統一化の方向をたどる。江戸期においてはこのような基準化が国の政策として扱われた形跡はないが、明治期には、特に文化人や学者などによって提唱、促進された。これらはおそらく、明治期においては国の公共的機関の統一や産業の発展を促すために表記法の平易化、および統一化が試みられたからではないかと思われる。それらの例として、福沢諭吉、前島密の言文一致運動があるが、特に前島は「漢字御廃止之議」という論文を書いている。またこれに従属する形でローマ字運動などが起こった。漢字の廃止や、ローマ字運動といった極端なものには反対したが、例えば島崎藤村や田山花袋といった自然主義の作家たちは言文一致体を作品に用いた。これらの自然主義作家たちの中には、島崎藤村のように、振り仮名を極力排除したものもあり、また一方で二葉亭四迷のように振り仮名を積極的に用いたものもあった。

この時代の振り仮名には二つの機能があって、それは大まかには読みに関して補助をする読み仮名と、意味に関して補助をする意味仮名である。これら二つの振り仮名は別々に用いられたこともあれば、難しい漢字仮名混じり文の中においては以下のように併用されることもあった。

休 <small>きゆう</small>	遊 <small>ゆう</small>	
業 <small>ぎよう</small>	戯 <small>ぎ</small>	(井上。1981)

また条文などには意味仮名の表記がみられる。以下のものは例えば漁師などで教育水準の低いものでも読んで意味が理解できるように配慮したものであろう。

うみのうえつきあたりようじんのきまり  
海上衝突予防規則

(井上。1981)

しかし印刷技術上の手間や、視覚的に煩雑になるためにこのような意味仮名や、もしくは意味仮名と読み仮名の二重表記は減少していった。

その後昭和13年には作家の山本有三が著作「戦争と二人の婦人」の後書に「振り仮名廃止論」を書いた。戦後、山本有三は文部省国語審議会の主催委員長として国字の均一化、簡潔化に従事し、「当用漢字」(後の常用漢字)の制定を成し遂げた。彼によれば文章は簡潔に書かれなければならない、よって振り仮名を使用しなければならないような文章は悪文であると考えられた。

「いったい立派な文明国でありながら、その国の文字をつかって書いた文章が、そのままではその国民の大多数のものには読むことができないで、いったん書いた文章の横に、もう一つの文字を列べて書かなければならないといふことは、国語として名誉なことではせうか」

「当用漢字」は漢字の使用を統一制限したものであるが、振り仮名の使用までは明確な形で制限しなかった。「当用漢字表使用上の注意」(武部。1980)の中では、「振り仮名は原則的には用いない」と述べられているに過ぎない。「当用漢字」は実際に漢字の読み方の範囲までは示さず、例外的な読みも認め、よって振り仮名の扱いもこの程度にとどめている。

これまで上記のように振り仮名の歴史的変遷を追い、その機能について述べてきた。それを要約すれば振り仮名には大きな二つの機能があって、それは漢字の読みを補う読み仮名としての機能と、もう一つには漢字もしくは句の意味を補う意味仮名としての機能である。

それでは現代における振り仮名の機能とはいったいどのようなものであるのか。結論からいえば、現代でも先の二つの機能がそのまま働いているのである。換言すれば、現代でも振り仮名の機能には読み仮名と意味仮名しかない。しかしながらその用いられ方や variety には大きな変化がみられる。そこで次に現代の振り仮名の機能の variety や特徴的な用いられ方について考察していく。

## 2.0 現代的類型

現代的な機能の中で主流を占めているのは音訓読みわけを示す読み仮名である。この機能は歴史的流れから一貫している機能ともいえるもので、振り仮名の一つの確立化された機能とも考えられる。そこで本研究では、この機能については研究対象から除外し、それ以外のものを抽出することとした。また「信天翁」と書いて「あほうどり」と読むように慣習的に確立化したものもこの機能の派生形として捉えることで、同様に研究対象から除外した。

データは従って、上記の機能以外のもの、すなわち従来の音訓読みわけと慣習的に決まったもの以外のものである。今回振り仮名の現代的類型を分類するに当たっては、最近(1986年4月から1987年6月)の出版物(主に雑誌)からデータを抽出し、約400のデータを収集した。

データの抽出・分析の結果、その機能は読み仮名と意味仮名の機能に大別されることが分かった。またその二つは各々の機能の中で下位分類されることが分かった。次にその機能について考察していく。

### 2.1 意味仮名の分類

意味仮名とは振り仮名によってその意味 (lexical meaning) を補うものであり、大衆的な読み物に総ルビが用いられた時代には読み仮名と併用されていたこともあった。しかし、双方ともしだいに教育が行き渡るようになると省略されるようになり、漢字の読みが振られる事のほうが多くなり、意味の方は読み仮名に比べると使用頻度が減ってきた。

意味仮名は、しかしながら、多様な形態と機能を持ちつつ現在に至っている。印刷形式上の理由によって大胆な、今迄に見られないような形式のもの、あるいは単なる辞書的意味を振ってあるのではなく、言外の意味、言換えれば特定のコンテキストがなければ通用しない意味を振ってあるものさえ存在する。

さて、それら意味仮名の機能的分類、およびそれらの下位分類を表にまとめると次頁のようになる。

意味がな機能分類表

翻訳的機能	外来語⇔日本語 外国語 (漢語, 和語)	言い換え機能	日本語⇔日本語
	辞書の翻訳 ・一般語意味 ・専門用語意味 ・俗語意味 ・省略記号意味  意識 ・類義語／連想語 ・造語（複合語）意味 ・明らかな間違い		・同義語 ・俗語 ・被振り仮名語を一字だけ読ませているもの ・同義語 （他の言葉に置き換える）  コンテキストに依存するもの ・人称代名詞 → ルビ使用者の視点 ・行為 → 婉曲表現 ・時 ・場所 → 相対概念  ・その他
			その他
			● Head + Modifier 修飾語関係など

多くの外来語および外国語が出版物のなかに見られる現在、意味仮名は翻訳的機能を持っているものを挙げることができよう。これは日本語の単語のうえにそれに相当する外国語を振るものと、その反対に外国語の単語のうえにそれに相当する日本語を振るものがある。それからもうひとつは、日本語から日本語に置き換えるという言い換えの機能を持つものを挙げることができる。これは漢字などで表わされた単語に対してそれと辞書的な意味で相互関係にあるものや、ある単語が用いられている環境のなかで動的意味において関係のあるものを振り仮名にして振るというものである。

以下は、それらの意味仮名を上記の表の項目別に例を挙げてみる。

### 2. 1. 1 翻訳的機能を持つ振り仮名

翻訳的機能を持つ振り仮名は、基本的に振り仮名が被振り仮名語（振り仮名を振られている語）を翻訳しているものである。表では辞書の翻訳と意識とい

うふたつに分類してみた。前者は振り仮名の辞書の意味と被振り仮名語の辞書  
的意味が一応イコールの関係で結ばれるものである。

以下、各々の項目別に例を挙げてみる。

(1) 一般語

<sup>ボディー</sup> 肉 体      <sup>ウインド</sup> 風      <sup>マシン</sup> 機 械      <sup>ガール</sup> 娘

この4つの例は外来語として定着している外国語に振られているものの例で  
ある。また組みあわせが逆になっているものも以下のようにある。

<sup>たんぱく質</sup> プロテイン      <sup>小物</sup> ガジエツト      <sup>裸</sup> ベアー

上記の3つのような例は、定着度の低い外来語、外国語に見られる。このよう  
なものは広告表現のような新しい言葉を多く使うものの中にも多い。

(2) 専門用語

専門用語や特殊な言葉にも多く見られる。

<sup>ヘッドイング</sup> 回 頭 (航空用語)      <sup>レッドランプ</sup> 警告灯 (航空用語)      <sup>ラダー</sup> 舵

(3) 俗語

一般的、専門的翻訳語以外には俗語にも振られている。

<sup>ジャンキー</sup> 魔薬中毒者

(4) 省略記号

特殊のものとしては省略記号に訳語が振ってある。

<sup>P</sup> <sup>m</sup> 7 : 0 0

ここまでは辞書の翻訳機能をもつ振り仮名の例であるが、以下は意識的機能の振り仮名の例である。これらは、作者の意図が含まれているもので、逐語的に翻訳していると思われないものである。

(5) 類義語・連想語

作者の解釈として、振り仮名と被振り仮名語が類義語、もしくは意味から連想される言葉の組みあわせになっていると思われるものである。言換えれば、振り仮名の意味が被振り仮名語の意味範ちゅうに含まれるもの、あるいは何らかの関係があるものである。もちろんこの類義語と連想語という二つの間には明確な一線を引くことはできない。以下に例を挙げてみる。

スタンダード 一流品	セオリー 基本
アダルト 大人感覚	

(6) 造語・複合語

造語・複合語というものの場合、各々の単語は逐語的に訳されているが、ある単語と単語の組み合わせの場合には、その組み合わせが相当する外国語の表現としてあり得ないと思われるような翻訳をしているものである。多くの日本語英語的表現と呼ばれるものや広告表現のなかにこういったものが見られる。

デビルファアザー 悪魔神父	ヤングパワー 若い力	スーパースクープ 超発見
ゴッドサイダー 神の側の人間		

(7) 明らかな間違い

意識のなかには明らかな間違いと思われるものもある。

ラストテーブル 最後の晩餐	パラノーマル 超常的
------------------	---------------

上の例では「最後の晩餐」では、通常なら「ラストサバー」とするべきである



が、「サパー」の代りに「テーブル」と振ってあるところが明らかに間違いである。ただし、ダヴィンチの「最後の晩餐」という絵画を知っている人間なら「テーブル」という言葉を連想する事もあり得るので、どこまでを意識、どこからを間違いと区別するのは困難であることも否めない。「パラノーマル」も間違いと思われる。通常「パラ」は「平行」という意味であり「超」という意味には用いられない。

### 2. 1. 2 言換え的功能

言換えの機能とは、振り仮名が被振り仮名語を何らかの形で言換えをしているものである。これは辞書的な意味での言換え、すなわち同義語と、あるコンテキスト（場面状況）の中で言換えが可能になるものとの二つに大別できる。いずれにせよ、基本的にどちらも同じ環境においたときに意味的に対立を起こさないものの括りである。

#### (1) 同義語

同義語には二種類ある。ひとつには被振り仮名語に同義語を振ってあるもの、もうひとつには被振り仮名語の同義語であり、かつ被振り仮名語の一字だけを読ませて省略・単純化を試みているものがある。

前者の例として以下がある。

た だ            い   ま            た び だ ち            わ   け  
無 料            現 在            出 発            理 由

後者の例として以下がある。

い   ま            な   か            く   る   ま            た   ま  
今 日            中 身            自 動 車            弾 丸

#### (2) 俗語

一般的な語以外に俗語を同義語として振る場合もある。

チャリンコ            ゴ            マ            マ  
自 転 車            暴 走 族            真 剣            本 当

以上が同義語の例であった。次にコンテキストに依存している振り仮名につ

いて見てみよう。これらは、言換え・置き換えではあるものの、前後の文脈や印刷媒体全体の状況を把握して初めて置き換えがきくものである。これらは代名詞によって置き換えられているものが多い。

表のなかで線で結ばれているもののうち、右側が被振り仮名語を支配している概念で、左側が具体的な被振り仮名語の種類である。

(1) 人称代名詞

わたしたち  
女性

カ  
オ  
リ  
KAORI

1人称代名詞である「わたし」や「わたしたち」という語は、作者（その文章を書いた人）、もしくはマンガなどの場合主人公の名前に振られていることが多い。「女性」——「わたしたち」が女性週刊誌に多くみられた。この場合は読者が女性であることを前提にしてあるために「女性」という語と「わたしたち」という語が意味的に対立しなくなるのである。「KAORI」は、作者が自分の名前を出すとともに自分の一人称代名詞を対立しない組みあわせとして表示しているのであろう。

さらに3人称代名詞の例を挙げてみる。

いいひと  
彼女

こども  
中学生

れんちゆう  
応援団

(2) 行為

特定の行為にも代名詞を振ってあり、それらは性的なことやタブーに関わる婉曲表現に多い。

こ  
と  
秘密

こ  
と  
浮気

こ  
と  
恋愛

(3) 時に関する言葉

き  
ょう  
今夜

(4) 場所を表わす言葉

こつち                  こ                  そ                  とあるばしよ  
東 京                  南 ア                  湿 原                  少年院

ロンドン  
本 流

さて、以上の例はコンテキストに依存する様々な組みあわせの例である。これらにおいては、被振り仮名語に客観的な行為、時、場所の言葉を置き、振り仮名にはそのコンテキストの中における読者を含む当事者の視点の反映された代名詞、婉曲表現、その他の表現が振られている。例えば、「浮気」は、客観的にその行為を示す語であり、「こと」はそのコンテキスト中の当事者の表現である。また、場所においては、「南ア（南アフリカ）」は、これが用いられているコンテキスト中の登場人物のいる場所を客観的に示したものであり、それに振られている「ここ」はその登場人物が、主観的に持つ視点を反映した表現である。「少年院」は、振り仮名が主観的表現の「とあるばしよ」という婉曲表現になっているものの例である。「本流」は、あるお酒の広告にあったものだが、これはロンドンが取りも直さずそのお酒の本場であるという言外の意味を反映させたものである。これはお酒の広告という広いコンテキストがなければ成立しえない。

(5) その他

ターゲット                  アトラクション                  アフアフ  
被害者                  冒 険                  密 愛

以上に挙げた例では、被振り仮名語が客観的な視点を示し、振り仮名がコンテキスト当事者の主観的な視点を表わしていると言える。上記の例で「被害者」は、靈感商法問題を扱った雑誌記事から抽出した例であるが、靈感商法業者からの視点では、「被害者」と呼ばれる一連の人々は金儲けの「ターゲット（標的）」である。しかし、「ターゲット」本人、読者、広くは社会的な通念から見れば、この一連の人たちは「ターゲット」よりも「被害者」である。これはどちらが主観的な視野を含むか客観的な視野を含むかというよりも、どちらもそれぞれ別の視野を持っていると考えられる。言換えれば、視点が対照的な場合でもコンテキストしだいで、このような振り仮名が振られる場合もありうる。なお、この項目は、形態的には振り仮名に外来語が振られ翻訳的機能を

持つと言え、機能的にはコンテキストに依存するものなので、前出の分類表では「外来語⇔日本語」の翻訳的機能の項目と「日本語⇔日本語」の言い換え機能の両項目にまたがるように設置した。

### 2. 1. 3 修飾語——被修飾語 (Head+Modifier)

意味仮名としての振り仮名には、修飾語としての機能を有していると思われるものもある。振り仮名が修飾語の役割をしている場合が多い。例を挙げてみよう。

ハードボイルド          オモシロ          ダイヤ  
小 説                  一 冊                  婚約指輪

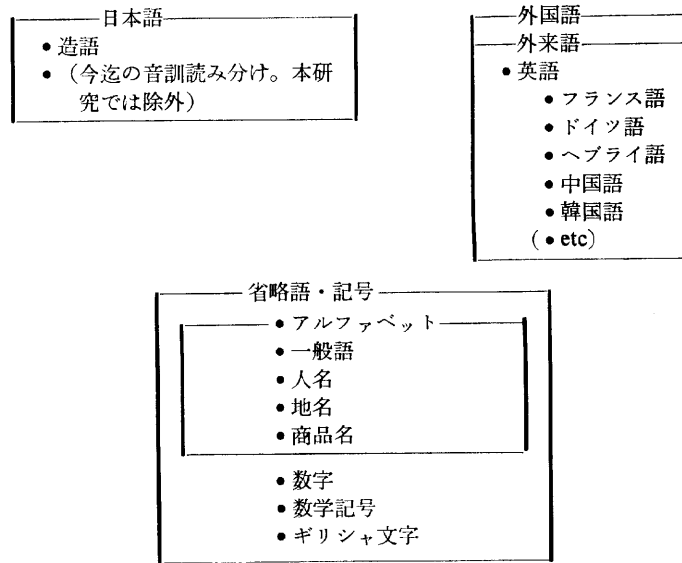
「小説」——「ハードボイルド」という組み合わせは「ハードボイルド (の) 小説」という文章化が容易に行なえる。他も「オモシロ (イ) 一冊」、「ダイヤ (の) 婚約指輪」などといった修飾語、被修飾語関係が結べる。

## 2. 2 読み仮名の類型

歴史的に存在した音訓読み分けという機能の読み仮名を除外して考えると、読み仮名の類型はさほど多くない。若年層を対象とした出版物——マンガなどでは今でも時たま「総ルビ」という形式は存在するものの、それとは別に、総ルビではなく、一部の漢字に振り仮名が振ってある「パラルビ」においては、殆どが特殊、あるいは難しい読みの漢字に振り仮名が読み仮名という形式で振ってあるに過ぎない。しかしながら、大人を対象とした出版物のなかでは普通の漢字以外にも外来語や外国語も多く、さらには広告などでは造語的な表現のものに音訓読み分け以外の読み仮名が存在する。以上のような特殊な例においては何に読み仮名が振られているのかを分類して次頁の表にしてみた。

表記の仕方 (かな, カナ, 漢字, アルファベット, etc.), 読み仮名がルビとして振られているのか、それとも逆に読みに本来の表記の語句がルビとして振られているのか、などは別として、以上の類の語句に読み仮名が振られている場合が多くみられた。ただし、広告などでは読み仮名でありながら音声表記的機能を持つかどうか疑問があるものも多い。その類のものは、純粋な読み仮名というよりは、音声面を強調した独自の表現と考えたほうがいいのかもし

読みがな分類表 (音訓読み分けを除く)



ない。ここにいくつかの例を挙げておく。

日本語

you mei jin  
「油 名 人」  
hoshi ki kou  
「星 紀 行」

食用油の広告。「有名人」とかけてある。  
レコードの広告

外来語・外国語

エイズ エイド  
AIDS AID  
カナ ディアン  
CANADIAN  
ボックス  
BOX  
ベー エム ベー  
B M W  
セシレニス  
CECILENE  
シュレミエール  
Shlemiel

英語  
英語  
英語  
ドイツ語・商品名頭文字  
フランス語・商店名  
ヘブライ語・諺

トクウエイ 当 帰	中国語・調味料名
チヨン ドファン 全 斗換	韓国語・人名

## 省略記号

ボーイフレンド ナンバー B F NO.	一般語
オードリー O. ヘップバーン	人名
ニューヨーク ロスアンゼルス NY LA	地名
クロッシング XING	商品名・雑誌名
ヨンヨンマル マルワンワンワン 440-0111	数字
プラス +	数学記号
アルファ α	ギリシャ文字

言語別組み合わせ表：読み仮名，読み仮名

振り仮名	日本語	英語	日本語+英語	日本語+英語	日本語
被振り仮名語	日本語	日本語	日本語	タイ語	日本語+英語

振り仮名	ヒンズー語	フランス語	イタリー語	日本語	日本語
被振り仮名語	日本語	日本語	日本語	ヘブライ語	韓国語

振り仮名	日本語	日本語
被振り仮名語	中国語	ギリシャ語

## 3.0 結び

歴史的にみると意味仮名，読み仮名という二つの大別はさほど変化がなく現代に至っているようである。戦後の「当用漢字」制定の時期には振り仮名が激減したわけであるが，それは数のうえの問題であり，質的な部分是不変であるようだ。

現代的類型のなかでは，今回の研究では従来の音訓読み分けは除外して考察を行なったが，実際には音訓読み分けの数量が全体の数のなかでは多いと思わ

れる。ただし、計量的な部分についてはその面の研究を別個に行なわなければならない。

音訓読み分け以外の類型、つまり今回の研究対象となった振り仮名について言えることは、従来考えられてきたような振り仮名は補助的な表記である、といった概念をやや改めなければならないということであろう。

本研究においては、意味仮名を「翻訳的」および「言換え」的」という二機能に下位分類したが、これらは用いられている部分（記事なり、物語なり）内でのコンテキスト、もしくはその出版物全体を含む社会的なコンテキスト（例えば、いったい誰がその雑誌を読むのか、など）の上に立脚して存在し、強制的な補足、または被振り仮名語と振り仮名の組みあわせによって生じる妙味によって概念や観念を解釈する余地を広げていると思われる。あるいは逆に広めるのではなく、ある特定の解釈に狭めている場合もある。

雑誌や漫画などの作者と読者の間、またはメディアの送り手の状況設定が整うと、「意味仮名」としての振り仮名は単なるレファレンスとしての意味仮名から、ある場面状況における含意 (implicature) としての意味仮名となる。これは、音声言語と同様に、視覚言語にも意味のダイナミズムがあることを示している。

意味のダイナミズムを考えに入れるなら、被振り仮名語と振り仮名自体を対比させてみた場合、どちらが主でどちらが従であるかというのも重要な考察の対象となってくる。しかし、それは今後の研究を待たなくてはならない。今回の研究における時点では、それを規定する明確な尺度というものを決められなかったため、主従という概念を無視したが、コンテキストを考慮に入れるなら、例えば「自転車」——「チャリンコ」という表記が、もし会話文のなかで用いられていたなら、話者がどちらを実際に言ったかとなると、やはり「チャリンコ」であろうし、それならばルビの方が主となる、という状況設定が成立したという考え方ができるのではないか。ということは、この面の研究には談話分析の要素も入ってくることになる。

振り仮名が振られている *written text* では、意味と音の二重表記がリニア（直線的）ではなく、デュアル（同時進行）に現われている。これは視覚的なもの、つまり表記であるがために可能な手法で、本来ならリニアでしか表わせないものをデュアルに表わすことができるところに振り仮名の重要な一面があると思われる。リニアにしか表出できない方法では、振り仮名で同時に表記できるところのものが、別の存在として認識されるが、振り仮名をふ

れば大概の場合これを同時に読者に認識させることができる。それは、場面状況における「意味（ダイナミックなもの）」を受け手に提示することである。英語の written text の場合は、日本語ならルビを振るような語は、パラフレーズを前後の文において行なうか、もしくは語の後ろの（ ）カッコのなかで説明するのであろうが、この方法ではリニアな表記になってしまい、ルビや振り仮名のような二重表記の効果は得られない。そういう意味で日本語と英語（あるいは他の言語）との対象比較も有意義な研究となるだろう。

それからもうひとつ挙げておきたいことは、印刷技術上の問題だろう。省略記号などに読み仮名が振られているようなケースもみてきた。これは省略記号を用いることによって使用スペースを節約し、かつ振り仮名を振ることによって情報伝達の確実性を高めている。振り仮名の必然性を考慮するなら、こうした物理的な側面も考えなければならぬ。

#### 調査雑誌一覧表

##### ☆女性誌

- 『Non-no』 No.13, 14 '87 集英社
- 『J・J』 8月号 '87 光文社
- 『クロワッサン』 5/25 7/10 '87 マガジンハウス
- 『An an』 No.555 '86 マガジンハウス
- 『Cosmopolitan』 6/20 '87 集英社
- 『暮しの手帖』 4月号, 5月号, 7月号 '87 暮しの手帖社
- 『元気な食卓』 8月号 '87 文化出版局
- 『女性自身』 7/7号 '87 光文社
- 『Can Can』 8月号 '87 小学館
- 『Mc Sister』 8月号 '87 婦人画報社
- 『'87 HAIR CATALOGUE ヘアカタログ』 女性自身 春号 Vol. 23 光文社

##### ☆男性誌

- 『Dolive』 7月号, 8月号 '87 青人社
- 『Play Boy』 8月号 '87 集英社
- 『週刊プレーボーイ』 7/14号 '87 集英社
- 『Hot Dog』 7/10号 '87 講談社
- 『GORO』 7/9号 '87 小学館

##### ☆漫画

- 『少年ジャンプ』 No.31, 32 '87 集英社
- 『少年サンデー』 No.31 '87 講談社
- 『ビッグコミック・スピリッツ』 6/11増刊号 小学館



84 '87 日本言語科学研究会プロシーディングズ I

『ビッグコミック・オリジナル』 6/15増刊号 小学館

『月刊少年マガジン』 7月号 '87 講談社

『別冊マーガレット』 7月号 '87 集英社

☆文芸誌

『オール読物』 8月号 '87 文芸春秋社

『小説宝石』 8月号 '87 光文社

☆専門誌

『月刊エアライン』 4月号 '86

『Golf Digest』 8月号 '87 ゴルフダイジェスト社

☆週刊誌・その他

『モノビジネス』 No.1, 2 '86 KK ワールドフォトプレス

『サンデー毎日』 6/7号 '87 毎日新聞社

『週刊新潮』 7/25号 '87 新潮社

『週刊朝日』 7/3号 '87 朝日新聞社

『ニューズウィーク日本版』 7/2号 '87 TBS プリタニカ

参 考 文 献

宛字外来語辞典編集委員会

1979 『宛字外来語辞典』, 東京: 柏書房

井上ひさし

1981 『私家版日本語文法』, 東京: 新潮社

小池正胤, 宇田敏彦, 中山右尚, 棚橋正博

1980 『江戸の戯作絵本』, 東京: 社会思想社

講談社校閲局

1983 『日本語の正しい表記』, 東京: 講談社

武部良明

1980 『日本語の表記』, 東京: 角川書店

築島 裕

1986 『歴史的仮名遣い』, 東京: 中公新書

三宅武郎

1978 『現代国語の書き表わし方』, 東京: 明治書院

由良君良

1986 『言語文化のフロンティア』, 東京: 講談社文庫